

書類・物品のラベリング・定置化をすることで
職員に整理整頓が身に付き、探す等にかかっていたムダな時間の削減になった。

質の向上：書類のラベリング・定置化したことによりムダな時間の削減になった。施設内の備品を
整理整頓・定置化したことにより、職員が整っている状態を保つようになった。
薬箱のラベリング等を行うことにより、職員の不安・誤薬事故等をなくす。

課題：職員の職場環境に対する意識が低く、自分以外の人の使い勝手を考えて整理整頓がなされて
いない。そのため物品・書類を探したり、片づけたりするムダな時間(間接的業務)が減らない。

解決のステップ：

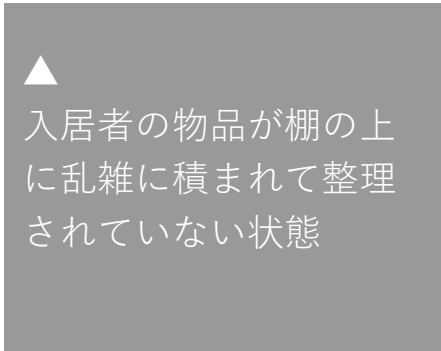
- ①リーダーを中心に、職員に5S活動を行う意味を伝え、職員の意識を高める。
- ②整理した方がよい物品等をリストアップし、職員の導線を考えて、書類・物品の位置を決める。
- ③整理・ラベリング等すべき書類をまとめ、使用頻度等を考えた差し込み・並び順番を決める。
- ④担当者・期日を決めて実施。
- ⑤継続的に5S活動を行うために、手順書を作成。



乱雑に積まれていた物品の保管場所を決め整理。



ユニットごとにファイルの種類・ラベリングをそろえることで見やすく分かりやすくなった。



▲
入居者の物品が棚の上に乱雑に積まれて整理されていない状態



▲
ラベリングやファイルの種類がばらばらで見にくく分かりづらかった。



▲
ファイルの整理整頓を行った結果棚が空き、有効活用スペースが増えた。



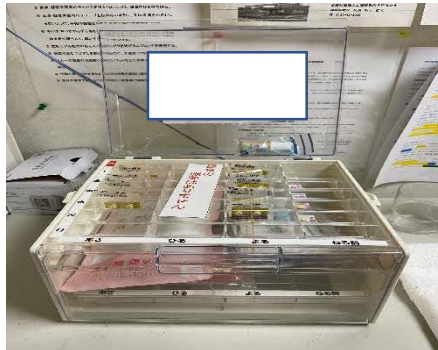
薬箱を開いた際に誰の服薬が分かりやすく写真、服薬の有無等を貼り付け。



薬箱を開けると服薬がないことが分かりやすく表示している。



既存の薬箱では氏名しか表示がなく、薬箱を見るだけでは、朝昼晩の薬の有無が分からない。



薬箱を上から見ると氏名、服薬の有無等が確認できるようにしている。



服薬の飲ませ忘れ等の防止のため、目で見えるようにチェック表を作成

現在の介護記録は、独自に作成した記録シート(Excel)に介護室でPCにて記録している。
記録作業場所が限られ、転記なども多いため記録作業に時間がかかる。
日中・夜間の見守りに対する職員の不安が強い。ご入居者様に合わせた適切な見回りが出来ていない。

質の向上：介護現場を離れることなく、記録作業が出来るようになった。ご入居者様それぞれに合わせた適切な見守り対応が出来るようになり、見守りにたいする職員の不安が軽減された。

課題：システムを導入することにより、PCだけではなくタブレット端末でも入力できるようにし、場所を選ばず、ご入居者様の隣でも記録作業が行えるようにする。システムと連動した見守り用別途マットを設置し、見守りに対する職員の不安を軽減させる。

解決のステップ：

- ①どのようなシステムを導入するのがよいか、リーダーを中心に職員と話し合う。
- ②様々な会社のシステム内容を確認し、導入準備を行う。
- ③導入前に、システム会社の担当者より導入するシステムについて学習機会を設ける。



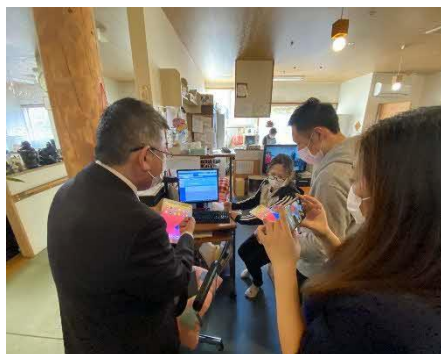
管理職のケアマネジメントシステム導入の説明会。ケアマネジャーへの説明実施。



日中、夜間の見守りシステム導入。システムは既存のマットの下に引くだけという簡単設置



介護記録システムについて職員の説明実施。わからないことは都度サポートセンターで実施。



入居者の隣で記録することにより、介護の場を離れることなく記録することが出来ている。



入居者が居室にいる際の状態等タブレット及びPCで確認ができ、居室への適切な見回りができるようになった。

ななかまど歌志内館では、自社の介護マニュアル(書類)が作成されているが、実効性が乏しい。

質の向上：マニュアルを映像・eラーニング化することにより、いつでも・どこでも・手間なく学べるようになった。Eラーニングの評価表で職員の理解度がわかり、ケアの標準化につなげる。

課題：活用されていないマニュアルを動画コンテンツ・eラーニング化し実用性を持たせる。

解決のステップ：

- ①書類としてあるマニュアルを映像化するために、マニュアルの内容を整理する。
- ②完成した映像・eラーニングを数名の職員で内容確認する。
- ③職員が使いやすい環境を用意し、活用する。
- ④eラーニングの評価表等を担当者が確認・面談し、実際の現場でサポート・ケアを標準化させる。

